

感動☆島体験

～人をつなぎ、心をつなぐ民泊体験～



平成20年に初めて体験型の修学旅行を受け入れて8年。観光交流人口の増加を核とした、周防大島町の活性化を目指して始めたこの取り組みは、今では年間3,000人を超える子どもたちが訪れるようになりました。8年間の総数は17,000人を超え、平成28年度にも、17校・約3,100人の受け入れを予定しています。

伊保田港での見送りの様子

平成20年～27年受入実績（都府県別）

これまでに延べ111校の子どもたちが周防大島を訪れています！



広がる民泊の輪

これまで、関東・関西を中心として、県内はもちろん、遠くは青森県まで、全国各地から子どもたちが訪れました。『感動☆島体験』と名付けられた周防大島の民泊は、受入家庭の皆さんとの交流を通して、子どもたちに大きな感動を与えています。子どもたちとの交流は、受入れたその時限りのものではありません。学校に帰った後も手紙をくれたり、夏休みに遊びに来たり…。民泊がきっかけで関西から周防大島高校に入学した子どももいます。

これまでの旅行と民泊の違い

民泊は、旅館やホテルに宿泊する一般的な旅行と比べ大きな違いがあります。それは、訪れた子どもたちが『お客さん』ではないということです。民泊家庭では子どもたちを『家族』として受入れます。家の作業や食事の準備は一緒にを行いますし、部屋に戻っても布団は敷いてありません。悪ふざけをすれば怒られます。民泊には『めんどくさい』がいっぱいあります。それなのに、子どもたちは民泊に感動し、「またくるね！』と言ってくれるのでしょうか？

子どもたちが求めているもの

子どもたちは学校の授業が終わった後も、部活動や塾などでも忙しい上、インターネットやゲームなどの普及により、人とふれあう機会、家族で過ごす時間がとてま少なくなっています。

そんな中、訪れる子どもたちにとっては、私たちの日常生活の中の『当たり前』が、とても新鮮なものとして映っています。

広く、突き抜けるような青い空。見渡す限りの美しい海。そんな豊かな自然の中で行う農漁業の体験はもちろん、一緒に食事を作ったり、夜は星を